

Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3)
プロダクトノート



Part No: E36223-01
2012 年 7 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	7
Sun Blade X3-2B モデル名の変更	7
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	7
ドキュメントとフィードバック	8
このドキュメントについて	8
サポートおよびトレーニング	8
寄稿者	9
変更履歴	9
Sun Blade X3-2B プロダクトノート の概要	11
今リリースの変更内容	13
システムのハードウェア機能とソフトウェア機能	15
ファームウェアのリリース履歴	15
Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境	16
サポートされているサーバーモジュールコンポーネント	19
サポートされているオペレーティングシステム	20
サーバーアップデート情報	21
Integrated Lights Out Manager (ILOM)	21
ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点	23
ホストのリセット時に Intel 関連のエラーがログに記録される (7163774) New	24
Oracle ILOM restore_status パラメータによって不完全なステータスが表示される (7167938)	24
Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 8/11 および Solaris 11 11/11 オペレーティング システムによって診断された障害をクリアできないことがある (7170842)	25
Oracle ILOM ログの電源リセットイベントエントリが間違っている (7165042)	26
BIOS 設定ユーティリティを使用してシリアルポートの所有権を変更できない (7168093)	26
MegaRAID Storage Manager が EFI パーティション分割を使用した 3T バイトドライ ブ上にホットスペアを割り当てることができない (7164218)	27
新しい BIOS ブートスプラッシュ画面	27

ドライブのスロット装着と仮想ドライブの作成に関する Oracle の推奨事項 (7124194)	28
Cisco 製のスイッチを使用していると PXE ブートに失敗する (7149683)	29
UEFI モードとレガシーモード間の移行中に UEFI ブートリストの設定が失われる ことがある (7080526)	29
Sun Blade 6000 Storage Module M2 のドライブリストに物理ストレージドライブが2 回現れる (7116807)	30
Oracle System Assistant の現時点での問題点	33
ユーザーは SP をアップデートするためにフル管理者ロール特権が必要である (7158820)	34
一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウン トできない	34
Oracle System Assistant が「user」というユーザー名をサポートしていない (7153741)	34
Windows 2008 で仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告される (7129124)	35
Oracle System Assistant を使用して Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA をレガシー BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアにアップデートできない (7123372)	35
Windows ダウンロードファイルを解凍するとき「Path too Long (パス名が長過ぎ る)」エラーが発生する (7116803)	36
「Launch」ボタンを使用して Oracle System Assistant を起動すると Oracle ILOM Web インタフェースにポップアップメッセージが表示される (7126194)	37
Oracle System Assistant を使用して Windows 2008 R2 SP1 を SG-SAS6-REM-Z および Sun Blade 6000 ストレージモジュール M2 にインストールしている間、ディスクが 表示されないことがある (7152565)	37
Linux の現時点での問題点	39
Oracle System Assistant の OS インストール支援機能を利用して SLES 11 をインス トールすると root パスワードの入力を求められることがある (7158471)	39
「Sense Key: Recovered Error」メッセージがコンソール上または /var/log/messages 内に現れることがある (7144197、7158666)	40
Linux の一部のバージョンに Oracle System Assistant USB デバイスをマウントでき ない	41
Oracle Linux および RHEL 6.1 の grub.efi を使用して、UEFI Linux クライアントを ブートするようにネットワーク PXE サーバーを設定できない (7095377)	41
SAS-2 RAID モジュールをホットプラグ装着するとエラーが発生する (SGX-SAS6-EM-Z) (7088969)	42
PCI カード/モジュールの装着数が多過ぎるとシステムがハングアップすることが ある (6899040)	42
RHEL 6.1 kdump が動作しない (7133869)	43

Oracle VM および VMware ESXi に関する問題点	45
Oracle VM の現時点での問題点	45
VMware ESXi の現時点での問題点	46
Oracle Solaris の問題点	47
Solaris パッチ一覧	47
Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の現時点での問題点	48
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	53
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	53
ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション	54
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	54
ファームウェアとソフトウェアの入手	56
アップデートのインストール	60

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 7 ページの「Sun Blade X3-2B モデル名の変更」
- 7 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 8 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 8 ページの「このドキュメントについて」
- 8 ページの「サポートおよびトレーニング」
- 9 ページの「寄稿者」
- 9 ページの「変更履歴」

Sun Blade X3-2B モデル名の変更

Sun Blade X3-2B の旧称は Sun Blade X6270 M3 サーバーモジュールです。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

新名称の意味は次のとおりです:

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 3 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を意味します。
- アルファベット B は、ブレードサーバー製品であることを意味します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます:

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みの新しいオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。

- My Oracle Support – <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、53 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X3-2B	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください:<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートおよびトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります:

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan、Cynthia Chin-Lee。

寄稿者: Yi Cai、Kenny Tung、Salomon Chavez Velazquez、Daniel Silverman、Johnny Hui、Angela Vlahos、Anand Srinivasan、Darren Tran、Mark Stanton、Denise Silverman、Ralph Woodley、Mick Tabor

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です:

- 2012 年 4 月。初版。
- 2012 年 5 月。SW 1.0.1 に合わせて更新。改訂版ドキュメントライブラリを再リリース。
- 2012 年 6 月。SW 1.1 に合わせて更新。プロダクトノートとサービスマニュアルを改訂。
- 2012 年 7 月。サーバーモデル名の変更。全ドキュメントを改訂。

Sun Blade X3-2B プロダクトノート の概要

注 - 重要: Sun Blade X3-2B は以前は Sun Blade X6270 M3 サーバーモジュールという名前でした。この名前がまだソフトウェアに表示されている場合があります。名前の変更は、システム機能の変更を示すものではありません。

『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』には、本サーバーに関する情報 (ソフトウェア、ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意や問題点を含む) が記載されています。

注 - このドキュメントには、ドキュメントの発行時点での正確な情報が記載されています。最新の情報は、次のオンライン Sun Blade X3-2B ライブラリで入手できます:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunBladeX3-2B>

説明	リンク
今バージョンのドキュメントの新情報の一覧です。	13 ページの「今リビジョンの変更内容」
サーバーでサポートされているコンポーネント、ファームウェア、ソフトウェアに関する情報です。	15 ページの「システムのハードウェア機能とソフトウェア機能」
ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する注意と問題点を確認します。	23 ページの「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点」
Oracle System Assistant に関する問題点と回避方法の一覧です。	33 ページの「Oracle System Assistant の現時点での問題点」
Linux OS に関する問題点と回避方法の一覧です。	39 ページの「Linux の現時点での問題点」
Oracle VM、および VMware ESXi に関する問題点と回避方法の一覧です。	45 ページの「Oracle VM および VMware ESXi に関する問題点」
Oracle Solaris に関する問題点と回避方法の一覧です。	47 ページの「Oracle Solaris の問題点」

説明	リンク
サーバーのファームウェアとソフトウェアの取得方法に関する情報です。	53 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」

今リビジョンの変更内容

このセクションでは、『Sun Blade X3-2B プロダクトノート』ドキュメントの今リビジョンの変更内容の一覧を示します。

ドキュメント変更履歴は次のとおりです:

- 2012 年 7 月 8 日。問題点 7163774 を変更
- 2012 年 7 月 7 日。問題点 7163774 を追加。
- 2012 年 7 月 6 日。サーバーモデル名の変更。名前の変更情報とファームウェアリリース履歴表を追加。問題点の追加変更はなし
- 2012 年 7 月 5 日。SW 1.1 に関する変更と問題点の追加。
- 2012 年 5 月。SW 1.0.1 に関する変更と問題点の追加。
- 2012 年 4 月。初版。

次の表に、新しく追加された問題点を含むセクションの一覧を示します。

セクション	新しい問題点
23 ページの「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点」	1

システムのハードウェア機能とソフトウェア機能

次の各セクションでは、Sun Blade X3-2B のハードウェア構成要件とソフトウェア機能について説明します:

- 15 ページの「ファームウェアのリリース履歴」
- 16 ページの「Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境」
- 19 ページの「サポートされているサーバーモジュールコンポーネント」
- 20 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
- 21 ページの「サーバーアップデート情報」
- 21 ページの「Integrated Lights Out Manager (ILOM)」

ファームウェアのリリース履歴

次の表に、リリースされたサーバーファームウェアのバージョン一覧を示します。

注- 最新のシステムソフトウェアリリースにアップグレードすることをお勧めします。これにより、システムでサポートされる最新のファームウェア、BIOS、およびドライバを入手できます。システムの最新ソフトウェアリリースをダウンロードするには、<http://support.oracle.com> にアクセスしてください。

システムソフトウェアリリース	Oracle ILOM SP ファームウェア	システム BIOS	CPLD
1.1	3.1.2.16 (r73956)	20020200	2.4
1.0.1	3.1.0.16.a (r72433)	20012100	2.4
1.0	3.1.0.16.a (r72433)	20012100	2.4

Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境

Sun Blade X3-2B は、2 つの Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシ、すなわち A90-B および A90-D によって補助されています。一部の構成では、Sun Blade X3-2B を取り付けたとき、2 つのシャーシで、サポートされる NEM、ストレージモジュール、サーバーモジュール、PCIe ExpressModule が異なることがあります。

注- 使用しているシャーシモデルを確認するには、『Sun Blade 6000 Modular System Service Manual』を参照してください。

次の各トピックで、各シャーシでサポートされているコンポーネントと構成について説明します:

- 16 ページの「A90-B シャーシでサポートされているコンポーネント」
- 17 ページの「A90-D シャーシでサポートされているコンポーネント」
- 18 ページの「サポートされている PCIe ExpressModule」

A90-B シャーシでサポートされているコンポーネント

Sun Blade X3-2B を A90-B Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシで使用するには、次の構成が必要です:

- PCIe 2.0 ミッドプレーン
- シャーシソフトウェアの最小リリース: 3.3.3

次の表に、Sun Blade X3-2B を取り付けたとき、A90-B シャーシでサポートされる NEM、ストレージモジュール、サーバーモジュールの一覧を示します。

注- 次の一覧に含まれていないサーバーモジュールや NEM がシャーシに取り付けられている場合は、必ずそれらのコンポーネントを取り外してから Sun Blade X3-2B を取り付ける必要があります。

サポートされている NEM¹

- Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N)
 - Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM (X4338A)
 - Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10 GbE (X2073A-N)
-

¹ 各 NEM で、FEM および REM のサポートが必要になることもあります。19 ページの「NEM に必要な FEM と REM」を参照してください。

 サポートされているサーバーモジュール

- SPARC T3-1B サーバーモジュール
 - SPARC T4-1B サーバーモジュール
 - Sun Blade T6320 サーバーモジュール
 - Sun Blade T6340 サーバーモジュール
 - Sun Blade X6270 サーバーモジュール
 - Sun Blade X3-2B
 - Sun Blade T6300 サーバーモジュール (注: このサーバーモジュールは、Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM のみをサポートしています)
-

 サポートされているストレージモジュール

Sun Blade ストレージモジュール M2

A90-D シャーシでサポートされているコンポーネント

Sun Blade X3-2B を A90-D Sun Blade 6000 モジュラーシステムシャーシで使用するには、次の構成が必要です:

- PCIe 2.0 ミッドプレーン
- サポートされているシャーシソフトウェアの最小リリース: 4.2

次の表に、Sun Blade X3-2B を取り付けたとき、A90-D シャーシでサポートされる NEM、ストレージモジュール、サーバーモジュールの一覧を示します:

注 - 次の一覧に含まれていないサーバーモジュールや NEM がシャーシに取り付けられている場合は、必ずそれらのコンポーネントを取り外してから Sun Blade X3-2B を取り付ける必要があります。

サポートされている NEM ¹
<ul style="list-style-type: none">■ Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N)■ Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM (X4338A)■ Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10 GbE (X2073A-N)■ Sun Blade 6000 40 GbE Virtualized NEM (7100090)
注 - この NEM の CMM 要件については、シャーシのプロダクトノートを参照してください。
¹ 各 NEM で、FEM および REM のサポートが必要になることもあります。19 ページの「NEMに必要なFEMとREM」を参照してください。

サーバーモジュール
<ul style="list-style-type: none">■ SPARC T3-1B サーバーモジュール■ SPARC T4-1B サーバーモジュール■ Sun Blade X3-2B■ Sun Blade X6275 GbE サーバーモジュール■ Sun Blade X6275 10 GbE サーバーモジュール
ストレージモジュール
Sun Blade ストレージモジュール M2

サポートされている PCIe ExpressModule

Sun Blade 6000 モジュラーシステムの A90-B または A90-D シャーシに取り付けられた Sun Blade X3-2B で、次の PCIe ExpressModule (PCIe EM) が使用できます。

種類	サポートされている PCIe EM
ギガビット Ethernet とファイバチャンネル	<ul style="list-style-type: none">■ デュアル 8Gb ファイバチャンネルとデュアル 1 GbE (Emulex)■ デュアル 8Gb ファイバチャンネルおよびデュアル 1 GbE (Qlogic)
ギガビット Ethernet	<ul style="list-style-type: none">■ Quad GigE MMS EM (Powerville)■ Quad GigE UTEP EM (Powerville)
10 ギガビット Ethernet	<ul style="list-style-type: none">■ デュアル 10 GbE SFP+■ デュアル 10 GbE Base-T Copper
SAS ホストバスアダプタ (HBA)	6Gb/s SAS2 ExpressModule HBA

種類	サポートされている PCIe EM
FCoE 10 Gb/s コンバージドネットワークアダプタ	<ul style="list-style-type: none"> デュアル 10 GbE FCoE Twin-Ax コンバージドネットワークアダプタ デュアル 10 GbE FCoE SR Optics コンバージドネットワークアダプタ
InfiniBand (IB)	QDR IB-HCA PCI-e

サポートされているサーバーモジュールコンポーネント

次の各トピックで、サーバーに取り付けるサポートされているコンポーネントについて説明します:

- 19 ページの「NEM に必要な FEM と REM」
- 19 ページの「サポートされている CPU」
- 20 ページの「サポートされているメモリー」
- 20 ページの「サポートされているストレージドライブ」

NEM に必要な FEM と REM

次の表に、各 NEM をサポートするために、サーバーモジュールに取り付ける必要があるファブリック拡張モジュール (FEM) と RAID 拡張モジュール (REM) を示します:

注 - 各シャーシモデルの NEM 要件については、[16 ページの「Sun Blade 6000 モジュラーシステム環境」](#) セクションの関連するトピックを参照してください。

サポートされている NEM	必要な FEM	必要な REM
Sun Blade 6000 10p GbE Pass-Thru NEM (X4250A-N)	FEM 必要なし。	REM 必要なし。
Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE M2 NEM (X4338A)	X4263A-N	SG-SAS6-REM-Z または SG-SAS6-R-REM-Z
Sun Blade 6000 Ethernet Switched NEM 24p 10 GbE (X2073A-N)	X4871A-Z	SG-SAS6-REM-Z または SG-SAS6-R-REM-Z
Sun Blade 6000 40 GbE Virtualized NEM (7100090)	7100283 (ATO) 7100633 (PTO)	SG-SAS6-REM-Z または SG-SAS6-R-REM-Z

サポートされている CPU

次の表に、サポートされている CPU の一覧を示します。

サポートされている CPU

- Intel Xeon E5-2690 (8 コア、2.9 GHz)
 - Intel Xeon E5-2660 (8 コア、2.2 GHz)
 - Intel Xeon E5-2640 (6 コア、2.5 GHz)
 - Intel Xeon E5-2609 (4 コア、2.4 GHz)
-

サポートされているメモリー

全部で 24 個 (CPU ごとに 12 スロット) の ECC メモリースロット付きレジスタード DDR3 DIMM。次の表に、サポートされているメモリーの一覧を示します。

サポートされているメモリー

- 8 GB DDR3 LV RDIMM 1600 MHz
 - 16 GB DDR3 LV RDIMM -1600 MHz
-

サポートされているストレージドライブ

サーバーには 4 基の SAS/SATA 2.5-インチディスクベイが搭載されており、ハードドライブ (HD) および半導体ドライブ (SSD) を装着できます。次の表に、サポートされているストレージドライブの一覧を示します。

サポートされているストレージドライブ

- 300 GB 10000 rpm SAS-2 HDD
 - 600 GB 10000 rpm SAS-2 HDD
 - 100 GB SATA SSD
 - 300 GB SATA SSD
-

サポートされているオペレーティングシステム

次に、Sun Blade X3-2B でサポートされているオペレーティングシステムを示します。

- Oracle Linux (64-bit) 5.7、5.8、6.1、6.2
- Oracle Solaris 10 8/11
- Oracle Solaris 11 11/11 (インストール済みオプションとしても使用可能)
- RHEL 5.7、5.8、6.1、6.2
- SLES 11 SP1 および SP2

- Oracle VM 3.0、3.1.1 Upgrade 3.0、および最小バージョン Oracle VM 3.0.2 で、いずれも Oracle eDelivery (<https://edelivery.oracle.com>) または Unbreakable Linux Network (ULN) (<https://linux.oracle.com>) で入手できます。(インストール済みオプションとしても使用できます。)
- VMware ESXi 5.0 および 5.0 update 1
- Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1

サーバーアップデート情報

サポート維持、機能拡張、問題修正のためのサーバーアップデートが公開されています。これらのアップデートには、新バージョンのファームウェア (BIOS および SP/Oracle ILOM)、新しくリリースされたツールやドライバ、その他のパッケージコンポーネントに対するアップデートが含まれます。アップデートがリリースされると、アップデートの ReadMe ファイルに変更内容の詳細が記述されます。ReadMe ファイルは、次のソースで入手できます:

- Oracle System Assistant (「System Information」ページの「Help」ボタンをクリック)。
- Readme の概略としての My Oracle Support (MOS)。
- MOS からダウンロードしたサーバーパッケージに同梱。

関連情報

- [53 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」](#)
- [21 ページの「Integrated Lights Out Manager \(ILOM\)」](#)
- 『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』

Integrated Lights Out Manager (ILOM)

各サーバーモジュールの計算ノードにはサービスプロセッサ (SP) が含まれています。SP には Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) がインストールされており、これによって、IPMI 2.0 準拠のリモートサーバー管理機能が提供されます。

次のインタフェースによって、Oracle ILOM に対するネットワークアクセスが提供されます:

- サーバーモジュールノードのサービスプロセッサ (SP) またはシャーシ監視モジュール (CMM) を介して Integrated Lights Out Manager (ILOM) にアクセス
- シリアル接続を使用してローカルの ILOM コマンド行にアクセス
- ミッドプレーンへの 10/100 管理 Ethernet ポート
- IP 経由のリモートのキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMS)

関連情報

ILOM の詳細については、次の URL にある ILOM 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B における、ハードウェア、ファームウェア、および BIOS に関する問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
24 ページの「ホストのリセット時に Intel 関連のエラーがログに記録される (7163774) New」	あり
24 ページの「Oracle ILOM restore_status パラメータによって不完全なステータスが表示される (7167938)」	あり
25 ページの「Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 8/11 および Solaris 11 11/11 オペレーティングシステムによって診断された障害をクリアできないことがある (7170842)」	あり
26 ページの「Oracle ILOM ログの電源リセットイベントエントリが間違っている (7165042)」	なし
26 ページの「BIOS 設定ユーティリティを使用してシリアルポートの所有権を変更できない (7168093)」	あり
27 ページの「MegaRAID Storage Manager が EFI パーティション分割を使用した 3T バイトドライブ上にホットスベアを割り当てることができない (7164218)」	あり
25 ページの「Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 8/11 および Solaris 11 11/11 オペレーティングシステムによって診断された障害をクリアできないことがある (7170842)」	
27 ページの「新しい BIOS ブートスプラッシュ画面」	該当なし
28 ページの「ドライブのスロット装着と仮想ドライブの作成に関する Oracle の推奨事項 (7124194)」	該当なし
29 ページの「Cisco 製のスイッチを使用していると PXE ブートに失敗する (7149683)」	あり
29 ページの「UEFI モードとレガシーモード間の移行中に UEFI ブートリストの設定が失われることがある (7080526)」	あり

問題点へのリンク	回避方法
30 ページの「Sun Blade 6000 Storage Module M2 のドライブラストに物理ストレージドライブが 2 回現れる (7116807)」	あり

▼ ホストのリセット時に **Intel** 関連のエラーがログに記録される (7163774) *New*

電源を再投入せずにホストをリセットした際、Oracle ILOM によって次のような Intel 関連のエラーが記録されます:

```
fault.io.intel.iio.misc-vpp-fail
```

ホストのリセット後、システムは正常に動作し続け、エラーはクリアされます。このエラーは無視してかまいません。この問題は現在調査中です。

回避方法:

- 1 システムのリセットを続行します。
- 2 続行するには、次のようにしてエラーをクリアします:

- a. 障害管理シェルを起動します:

```
-> start /SP/faultmgmt/shell
```

- b. 両方の CPU でエラーをクリアします:

```
faultmgmtsp> fmadm acquit /SYS/MB/P0
```

```
faultmgmtsp> fmadm acquit /SYS/MB/P1
```

```
faultmgmtsp> exit
```

▼ **Oracle ILOM restore_status** パラメータによって不完全なステータスが表示される (7167938)

Oracle ILOM UEFI BIOS 構成が読み込まれるとき、構成ファイルに入力ミスや非アクティブパラメータ (BIOS の現バージョンでは無効になっているパラメータ) が含まれていることがあります。結果として、1 つ以上のパラメータの読み込みに失敗することがあります。こうした読み込みエラーが発生すると、Oracle ILOM の /System/BIOS/Config/restore_status パラメータ (最後に実行された構成ファイルの読み込みのステータスを保持している) によって、構成ファイルの読み込みが不完全な復元として報告されます。/System/BIOS/Config/restore_status パラメータの値は、Oracle ILOM UEFI BIOS 構成ファイルが次回読み込まれるまで変更されません。

回避方法:

- 1 テキストエディタを使用して、次のような内容のファイルを作成します:
<BIOS>
</BIOS>
- 2 拡張子を `.xml` にしてファイルを保存します。
- 3 構成を読み込むには、次のコマンドを入力します:
-> `load -source URI_location/ file_name.xml /System/BIOS/Config`
ここで、`URI_location` はパス、`file_name.xml` は直前の手順で作成したファイルです。
- 4 ホストの電源が入っている場合は、次のコマンドを入力してホストをリセットします::
-> `reset /System`

▼ Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 8/11 および Solaris 11 11/11 オペレーティングシステムによって診断された障害をクリアできないことがある (7170842)

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 は、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムによって診断された障害をクリアできないことがあります:

- Oracle Solaris 10 8/11
- Oracle Solaris 11 11/11

回避方法:

- 次のいずれかを実行します:
 - Oracle Solaris OS を使用して障害をクリアします。
 - Oracle ILOM CLI の `faultmgmt` シェルから次の手順を実行します:
 - a. 「`fmadm faulty`」の出力から障害の `UUID` を確認します。
 - b. 「`fmadm acquit<UUID>`」と入力して障害をクリアします。

Oracle ILOM ログの電源リセットイベントエントリが間違っている (7165042)

ホストの電源を再投入するとイベントログに次のようなエントリが表示されます:

To synchronize configuration data between ILOM and UEFI using IPMI "Chassis Control" commands, e.g., 'ipmitool chassis power cycle'

16 Fri Apr 27 18:13:31 2012 Power Cycle major /SYS has been cycled by IPMI Request over IPMB interface In the above event, the source of the host power-cycle request is incorrectly identified as ?IPMI Request over IPMB interface,

このイベントでは、ホスト電源再投入リクエストのソースが誤って IPMI Request over IPMB interface として識別されていますが、実際には、SP には IPMB インタフェースは接続されていません。

影響を受けるソフトウェア: Oracle ILOM 3.1 およびプラットフォームソフトウェア 1.0/1.1

回避方法はあります。

▼ BIOS 設定ユーティリティーを使用してシリアルポートの所有権を変更できない (7168093)

BIOS 設定ユーティリティーでは、外部シリアルポートの所有権 (「Advanced」 > 「Serial Port Console Redirection」 > 「External Serial Port」) がデフォルトでサーバーのサービスプロセッサ (SP) に与えられており、この設定を、BIOS 設定ユーティリティーを使用して変更することはできません。この所有権設定を変更するには、Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) を使用します。

回避方法:

- シリアルポートの所有権を変更するには、次の手順を実行します:
 - a. Oracle ILOM CLI にログインします。
 - b. 外部シリアルポートの所有権を変更するには、CLI プロンプトに次のコマンドを入力します:
-> **set /SP/serial/portsharing/owner=host**
デフォルト値 = 'SP'

▼ MegaRAID Storage Manager が EFI パーティション分割を使用した 3T バイトドライブ上にホットスペアを割り当てることができない (7164218)

MegaRAID Storage Manager (v11.08.03.02) は、仮想ドライブが SG-SAS6-REM-Z REM カードを基盤としており、拡張ファームウェアインタフェース (EFI) を使用して 3T バイトドライブ上に構築されている場合、ホットスペアを割り当てることができない場合があります。

回避方法:

- この MegaRAID Storage Manager の障害が修正されるまでの間、この構成にホットスペアを割り当てするには、**sas2ircu** ユーティリティを使用します。

新しい BIOS ブートスプラッシュ画面

BIOS ブートスプラッシュ画面が変更されました。次のスクリーンショットのようになりました:



ドライブのスロット装着と仮想ドライブの作成に関する Oracle の推奨事項 (7124194)

ブレードサーバーは特別なアーキテクチャーを採用しているため、ディスクサブシステムを構成する際には留意しなければならない重要な点が多数あります。ドライブタイプの選択 (SAS、SSD) とそれらのドライブのサーバーモジュール内での場所もそうした重要事項に含まれます。大半のサーバーモジュールの内蔵ディスクは1基のポートによって接続されており、最大動作速度は3G ビット/秒です。

ストレージモジュールに装着されたディスクは2基のポートで接続されており、最大動作速度は6G ビット/秒です。デュアルポートドライブは耐障害性が強化されており、プライマリポートで障害が発生してもドライブがオンラインのまま維持されます。現在、SAS がデュアルポートをサポートしています。SATA と SATA SSD ドライブはシングルポートです。

システムを構成する際には、さまざまなサーバーモジュールとドライブタイプを考慮に入れた上で、次の点に配慮する必要があります：

- 各仮想ドライブは同じインタフェースを持つドライブだけ (たとえば、SAS ドライブのみ、または SATA SSD ドライブのみ) で構成する必要があります。
- 各仮想ドライブは、単一障害ドメイン内に属していなければなりません。Sun Blade X3-2B の各内蔵ディスクは単一障害ドメインであるとみなされます (シングルポート接続のみ)。1 つ以上の Sun Blade 6000 ストレージモジュールも単一障害ドメインであるとみなされます。Sun Blade X3-2B 上に作成される仮想ドライブの数は、ホットスペアドライブを含め、4 つまでに制限されます。Sun Blade 6000 ストレージモジュール上には、サーバーモジュールにアクセス可能な Sun Blade 6000 ストレージモジュールの数に応じて、8 つまたはそれ以上の仮想ドライブを作成できます。
- 専用ホットスペアのみを使用します。別の障害ドメインからアクセスできる場合は、グローバルなホットスペアを使用してはいけません。
- 専用ホットスペアには、同じ障害ドメインに属するドライブグループだけを含める必要があります。そうすることで、任意のドメイン用に「仮想」グローバルホットスペアを作成できます。
- Sun Blade 6000 ストレージモジュールでは、SATA/SATA-SSD ドライブはサポートされていません。シャーシの Zone Manager を使用して、複数のドライブをゾーン分割することはできません。
- Sun Blade X3-2B では、SAS と SATA の両タイプのドライブをサポートしていますが、サーバーモジュールで使用した場合、SAS ドライブは最大速度では動作せず、2 つ目のポートを使用できません。
- SAS ドライブと SATA ドライブはサーバーモジュール内では混在してもかまいませんが、仮想ドライブではどちらか一方のタイプに統一する必要があります。たとえば、1 つの Sun Blade X3-2B 内に、2 ドライブの SAS RAID 1 と 2 ドライブの SATA-SSD RAID 1 を混在させることができます。

▼ Cisco 製のスイッチを使用していると PXE ブートに失敗する (7149683)

Cisco 製のスイッチを使用している場合、サーバーの PXE ブートに失敗します。この問題には、次の 2 つの回避方法があります:

- 次のいずれかを実行します:
 - スwitchのシリアルコンソールに **exec** モードでログインし、スパニングツリーをオフにします:


```
Router(config)#no spanning-tree
```
 - 次のように入力して **Portfast** 拡張機能を有効にします:

注 - Portfast は Cisco のスパニングツリー拡張機能で、ポートを、ブロック/無効/学習中/リスン中の各状態から転送状態へと移行させることができます。Portfast を有効にすると、各デバイスは、ポートの初期化が終了しだい、データを送受信できるようになります。

```
Switch>enable Switch#configure terminal Switch(config)#spanning-tree portfast default
```

変更した内容を確認するため、次のコマンドを実行します:

```
Switch#show spanning-tree interface GigabitEthernet 0/48 portfast
```

▼ UEFI モードとレガシーモード間の移行中に UEFI ブートリストの設定が失われることがある (7080526)

BIOS モードをUEFI ブートとレガシーブート間で切り替えると、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) ブート優先度設定が失われることがあります。2 つの BIOS モード間での切り替えが発生する 1 つのケースとして考えられるのは、レガシーブートモードでしか動作しない PC チェックユーティリティにアクセスする必要がある場合です。必ず UEFI 構成設定を保存してから、UEFI BIOS モードとレガシー BIOS モード間で切り替えを行ってください。

- 1 **ueficonfig** アプリケーションを使用して構成設定を保存してから、BIOS モードを切り替えます。

2 UEFI モードに復帰したら、BIOS 構成設定を復元します。

UEFI 構成設定を保存するための情報と手順の詳細は、次にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリの『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 構成および保守ガイド』を参照してください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ Sun Blade 6000 Storage Module M2 のドライブリストに物理ストレージドライブが 2 回現れる (7116807)

次の各条件が満たされる場合、Sun Blade 6000 Storage Module M2 の物理ドライブが 2 回表示されることがあります:

- Sun Storage 6 Gb SAS REM HBA (SG-SAS6-REM-Z) REM がインストールされている
- システムが UEFI モードでブートするように構成されている
- Sun Blade 6000 ストレージモジュール上の物理ドライブを使用して仮想ドライブを作成している
- シャーシに 2 つの NEM が取り付けられている

● 仮想ドライブを作成する前に次のいずれかを実行してください:

- **Sun Blade 6000** シャーシに取り付けられているどちらか一方の **NEM** を取り外します。これを行うと、物理ドライブがリストに 1 回だけ現れるようになります。
仮想ドライブを作成したら、NEM を置換できます。
- レガシーブートモードで、次のようにして仮想ドライブを作成します:
 - a. サーバーをブートして、**BIOS 設定ユーティリティー**を開きます。
 - b. 「**Boot**」メニューに移動して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」エントリを「**UEFI**」から「**Legacy**」に変更します。
 - c. 設定ユーティリティーの「**Save & Exit**」タブから「**Save Changes and Reset**」を選択します。
 - d. システムがリブートして、**SG-SAS6-REM-Z** 設定ユーティリティーを起動するよう求めるプロンプトが表示されたら、**Ctrl-C** キーを押します。
 - e. **SG-SAS6-REM-Z** 設定ユーティリティーを使用して仮想ドライブを作成します。

- f. 仮想ドライブを作成したら、**BIOS** の設定に戻って、ブートモードを **UEFI** に戻します。

Oracle System Assistant の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B における Oracle System Assistant の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
34 ページの「ユーザーは SP をアップデートするためにフル管理者ロールの特権が必要である (7158820)」	該当なし
34 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」	あり
34 ページの「Oracle System Assistant が「user」というユーザー名をサポートしていない (7153741)」	あり
35 ページの「Windows 2008 で仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告される (7129124)」	あり
35 ページの「Oracle System Assistant を使用して Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA をレガシー BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアにアップデートできない (7123372)」	あり
36 ページの「Windows ダウンロードファイルを解凍するとき「Path too Long (パス名が長過ぎる)」エラーが発生する (7116803)」	あり
37 ページの「「Launch」ボタンを使用して Oracle System Assistant を起動すると Oracle ILOM Web インタフェースにポップアップメッセージが表示される (7126194)」	あり
37 ページの「Oracle System Assistant を使用して Windows 2008 R2 SP1 を SG-SAS6-REM-Z および Sun Blade 6000 ストレージモジュール M2 にインストールしている間、ディスクが表示されないことがある (7152565)」	あり

ユーザーは **SP** をアップデートするためにフル管理者ロール特権が必要である (7158820)

USB/LAN ローカルホスト相互接続を使用して Oracle System Assistant から Oracle ILOM/SP ファームウェアをアップデートする際に、ログインプロンプトが表示されます。ファームウェアのアップデートを実行するには、root、管理者、または高度な (auro) ロール特権を持つユーザーとしてログインする必要があります。

注 - ローカルのホスト相互接続が USB/LAN ではない場合、ログインプロンプトは表示されません。ただし、その場合、SP のアップデート所要時間が長くなります (最大 40 分)。相互接続方法は、Oracle ILOM の「Local Host Interconnect」設定によって決まります。

ファームウェアのアップデート手順については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「ソフトウェアとファームウェアの設定」を参照してください。

一部のオペレーティングシステムで **Oracle System Assistant USB** デバイスをマウントできない

Oracle VM 3.0、Oracle Solaris 10、およびいくつかのバージョンの Linux など、一部のオペレーティングシステムで、Oracle System Assistant USB デバイスが自動マウントされません。USB デバイスにアクセスするには、手動で同デバイスをマウントする必要があります。Oracle VM 3.0、Oracle Solaris 10、および Linux ベースのシステム上にデバイスをマウントする手順については、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「Oracle System Assistant の USB フラッシュドライブのマウント」を参照してください。

▼ **Oracle System Assistant が「user」というユーザー名をサポートしていない (7153741)**

Oracle System Assistant サービスプロセッサ構成タスクでは、「user」というユーザー名でユーザーを作成できません。また、Oracle ILOM を使用して「user」という名前のユーザーを作成することはできますが、上記タスクでそのユーザーを削除または変更することはできません。

回避方法:

- **Oracle ILOM の Web インタフェース**または**コマンド行インタフェース**を使用して、「**user**」という名前のユーザーを作成、削除、変更します。
Oracle ILOM の使用法については、次にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ドキュメントライブラリを参照してください:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ **Windows 2008 で仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告される (7129124)**

Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 SP1 ドライバをインストールしたあと、Windows Device Manager によって仮想 Ethernet デバイスがインストールされていないと報告されます。Oracle System Assistant は、このインタフェースのドライバを提供していません。このドライバは、Oracle Hardware Management Pack として入手できます。

回避方法:

- 次のいずれかを実行します:
 - このドライバを入手するには、**Oracle Hardware Management Pack** をインストールします。この管理パックは、**Oracle System Assistant** で補助ツールとして使用できます。
 - このデバイスを無効にして **Windows Device Manager** に表示されないようにするには、次のコマンドを実行します:

```
ilomconfig disable interconnect
```

▼ **Oracle System Assistant を使用して Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA をレガシー BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアにアップデートできない (7123372)**

Oracle System Assistant を使用して、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe ホストバスアダプタ (HBA) をレガシー (非 UEFI) BIOS ファームウェアから UEFI BIOS ファームウェアにアップデートすることはできません。

HBA を Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS ファームウェアにアップデートするには、2つのファームウェアアップデートを連続して行う必要があります。

す。Oracle System Assistant では、1つの HBA に対してファームウェアアップデートを連続して実行することはできません。そこで、代わりに、LSI sas2flash ユーティリティを使用します。

次の回避策を実行することで、LSI sas2flash ユーティリティを使用して HBA ファームウェアをアップデートします:

- 1 OSバージョン固有の HBA 用 sas2flash ユーティリティを次の URL でダウンロードします: http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sas_6gbs_support.a_spx
- 2 コントローラ番号を確認するため、sas2flash ユーティリティを使用して、取り付け済み SAS2 (Sun Storage 6 Gb SAS PCIe) HBA をすべてリスト表示します:-> **sas2flash -listall**
- 3 HBA をアップデートするため、次の sas2flash コマンドを実行します。ここで、*n* は、手順 2 の **sas2flash list** コマンドによって表示されたコントローラ番号です。
-> **sas2flash -c *n* -f fw-rem-11050000-0a030019.bin**
-> **sas2flash -c *n* -b x64sas2-07180207.rom**
-> **sas2flash -c *n* -b mptsas2-7210400.rom**

▼ Windows ダウンロードファイルを解凍するとき「Path too Long (パス名が長過ぎる)」エラーが発生する (7116803)

デフォルトの Windows Server 2008/2008R2 圧縮ユーティリティを使用して MOS からダウンロードした Windows パッケージを解凍すると、パスが長過ぎるという旨のエラーが表示されることがあります。パスの長さは、Windows OS によって決まります。ドライブ文字、コロン、バックスラッシュ、バックスラッシュで区切られた名前要素、および末尾の NULL 文字を含む最大パスは、260 文字と定義されています。

回避方法:

- サードパーティー製の圧縮ユーティリティを使用します。
サードパーティー製のユーティリティの中には、Windows のデフォルト圧縮ユーティリティとは異なり、より長い最大パス長を使用できるものがあります。

▼ 「**Launch**」 ボタンを使用して **Oracle System Assistant** を起動すると **Oracle ILOM Web インタフェース** にポップアップメッセージが表示される (**7126194**)

Oracle ILOM Web インタフェースの「Summary」ページには、ホスト電源ステータスインジケータが表示され、ホストの電源ステータスが正しく反映されます。ところが、Oracle System Assistant の「Launch」 ボタンをクリックすると、ホストの電源ステータスインジケータにホストの電源ステータスが正しく反映されなくなり、次のようなポップアップメッセージが表示されることがあります:

Cannot retrieve host power status

- ポップアップメッセージを無視し、**Web** ブラウザを手動でリフレッシュしてページのホスト電源状態情報を更新します。

▼ **Oracle System Assistant** を使用して **Windows 2008 R2 SP1** を **SG-SAS6-REM-Z** および **Sun Blade 6000 ストレージモジュール M2** にインストールしている間、ディスクが表示されないことがある (**7152565**)

Oracle System Assistant を使用して Windows をインストールしている間、ブートクリティカルなすべてのドライバは WinPE フェーズで読み込まれます。このため、SG-SAS6-REM-Z ドライバが読み込まれると、ディスクが表示されなくなります。

- 1 **Windows 2008 R2 SP1** をインストールする前に、**Sun Blade 6000** シャーシからすべての **Sun Blade 6000 ストレージモジュール M2** を取り外します。
- 2 **Windows** のインストールが終了したら、取り外したモジュールを再度取り付けます。

Linux の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B 上で動作する Linux OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
39 ページの「Oracle System Assistant の OS インストール支援機能を利用して SLES 11 をインストールすると root パスワードの入力を求められることがある (7158471)」	あり
40 ページの「「Sense Key: Recovered Error」メッセージがコンソール上または /var/log/messages 内に現れることがある (7144197、7158666)」	あり
41 ページの「Linux の一部のバージョンに Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」	あり
41 ページの「Oracle Linux および RHEL 6.1 の grub.efi を使用して、UEFI Linux クライアントをブートするようにネットワーク PXE サーバーを設定できない (7095377)」	あり
42 ページの「SAS-2 RAID モジュールをホットプラグ装着するとエラーが発生する (SGX-SAS6-EM-Z) (7088969)」	あり
42 ページの「PCI カード/モジュールの装着数が多過ぎるとシステムがハングアップすることがある (6899040)」	あり
43 ページの「RHEL 6.1 kdump が動作しない (7133869)」	あり

▼ Oracle System Assistant の OS インストール支援機能を利用して **SLES 11** をインストールすると **root** パスワードの入力を求められることがある (7158471)

Oracle System Assistant の OS インストール支援機能を利用して SLES 11 をインストールすると root パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されることがあります。インストールボリュームを作成した方法 (Oracle System Assistant または LSI WebBIOS) によって、パスワードプロンプトが表示されるかどうかが決まりま

す。Oracle System Assistant (RAID Configuration タスク) を使用してインストールボリュームを作成した場合は、パスワードプロンプトは表示されません。LSI WebBIOS を使用してインストールボリュームを作成した場合は、パスワードプロンプトが表示されます。

- パスワードプロンプトが表示されたら、次のパスワードを入力してください:
changeme

▼ 「Sense Key: Recovered Error」メッセージがコンソール上または /var/log/messages 内に現れることがある (7144197、7158666)

Oracle Linux 5.8 カーネル、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.8 カーネル、および SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 Base Install, Service Pack 1 カーネルでは、特定のハードウェア構成が行われていると、カーネルおよび smartd サービスがうるさいくらいにエラーメッセージを生成することがあります。これらのカーネルを使用しているシステムで、smartd によるブロック型デバイスの監視が有効になっており、内蔵 Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID ホストバスアダプタ (HBA) が RAW JBOD モードで稼働している SATA ドライブ (7101423 100GB Solid State SATA Drive など) に接続されていると、システムコンソール上または /var/log/messages ファイル内に、次の例に示すようなエラーメッセージが生成および表示されることがあります:

```
Feb 9 18:24:58 X4270M3host kernel: [9108.314218] sd
0:0:0:0 [sda] Sense Key: Recovered Error
[current][descriptor]
Feb 9 18:24:58 X4270M3host kernel: [9108.314226]
Descriptor sense data with sense descriptors (in hex):
Feb 9 18:24:58 X4270M3host kernel: [9108.314229] 72 01
00 1d 00 00 00 0e 09 0c 00 00 00 00 00 00
Feb 9 18:24:58 X4270M3host kernel: [9108.314240] 00 4f
00 c2 00 50
Feb 9 18:24:58 X4270M3host kernel: [9108.314246] sd
0:0:0:0 [sda] Add. Sense ATA pass through information
available.
```

影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:

- サーバーでサポートされている Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA
- Oracle Linux 5.8
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.8

回避方法:

- 次の OS 固有の回避策を実行します:
 - Oracle Linux 5.8 および RHEL 5.8 の場合:
 - a. メッセージを無視します。
 - SLES 11 SP1 の場合:
 - a. メッセージを無視するか、次のいずれかを実行します:
 - SUSE から最新の **errata** カーネルにアップデートします。
-または-
 - Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA コントローラ配下のすべての JBOD SATA ドライブの **smartd** による監視を無効にします。
smartctl コマンドを使用して、ドライブの監視を無効にし、ドライブの監視ステータスを確認します:


```
# smartctl -s off /dev/device_name
```


ここで、*device_name* は、ストレージドライブの名前です。

Linux の一部のバージョンに Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない

次のエントリを参照してください: [34 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」](#)

▼ Oracle Linux および RHEL 6.1 の grub.efi を使用して、UEFI Linux クライアントをブートするようにネットワーク PXE サーバーを設定できない (7095377)

UEFI Linux クライアントは、Oracle Linux または RHEL 6.1 サーバーからブートされると、パニックを引き起こします。

回避方法:

- **Oracle Linux** または **RHEL 6.1** サーバーから **PXE** ブートする前に、次のいずれか実行します:
 - **Sun Blade X3-2B** サーバーの **BIOS** をレガシーモードに切り替えます。
サーバーがブートします。
 - a. システムブート時に、**F2** キーを押して **BIOS** 設定メニューに入ります。
 - b. 「**BOOT**」メニューに移動します。
 - c. 「**UEFI/BIOS Boot mode**」を「**Legacy**」に変更します。
 - 使用している **PXE** ブートサーバー上で、**Oracle Linux 6.1** ディストリビューションの **grub.efi** bootloader パッケージをアップデートします。
アップデートは **ULN** (<http://linux.oracle.com>) から入手できます。

▼ **SAS-2 RAID** モジュールをホットプラグ装着するとエラーが発生する (**SGX-SAS6-EM-Z**) (**7088969**)

Oracle Linux 5.7/6.1、Red Hat Enterprise Linux 5.7/6、または SUSE Enterprise Linux 11 SP1 を実行している Sun Blade X3-2B に SAS-2 RAID Module (SGX-SAS6-EM-Z) をホットプラグ装着するとエラーになることがあります。このエラーが発生すると、次のようなエラーメッセージが生成されます:

```
pciehp 0000:00:02.2:pcie04: Cannot add device at 0000:30:00
```

回避方法:

- **SAS-2 RAID** モジュール (**SGX-SAS6-EM-Z**) が取り付けられているブレードをリブートします。

▼ **PCI** カード/モジュールの装着数が多過ぎるとシステムがハングアップすることがある (**6899040**)

システムに取り付けられた **PCI** カードまたは **PCIe Express** Module の数が多過ぎると、**OEL 5.7 Xen** カーネルのブート中にサーバーがハングアップし、次のメッセージがコンソールに表示されることがあります:

```
Starting udev: Wait timeout. Will continue in the background.[FAILED]
```

回避方法:

- 次のいずれかを実行します:
 - カーネルのブート引数に **pci=noms**i を追加します。
 - 不要な PCI カードまたはモジュールをサーバーモジュールまたはシャーシから取り外します。

▼ **RHEL 6.1 kdump が動作しない (7133869)**

OEL 6.1 および RHEL 6.1 で、ブートして 2 番目のカーネルに移行するとき、kdump がハングアップすることがあります。

回避方法:

- この問題は、**Oracle Linux 6.2** および **RHEL 6.2** で修正されました。

Oracle VM および VMware ESXi に関する問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B における Oracle VM および ESXi ソフトウェアの問題点について説明します。

- [45 ページの「Oracle VM の現時点での問題点」](#)
- [46 ページの「VMware ESXi の現時点での問題点」](#)

Oracle VM の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B における Oracle VM OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
45 ページの「Oracle VM 3.0.x 上で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7149878)」	あり
45 ページの「Oracle VM 3.0 上で日付が間違っている (7061790)」	なし

Oracle VM 3.0.x 上で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7149878)

次のエントリを参照してください: [34 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」](#)

Oracle VM 3.0 上で日付が間違っている (7061790)

Oracle VM サーバーは、現在年が 2005 年の状態でブートされることがあります。SP、Host TOD、および RTC のクロックは同期されていないため、サーバーをブートするたびに常に正しい時間設定が維持されるとはかぎりません。

VMware ESXi の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B における VMware ESXi ソフトウェアの問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
46 ページの「ESXi で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7154313)」	なし

ESXi で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない (7154313)

ESXi サーバー上では Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできませんが、同デバイスには、GUEST OS のインストール後、ESXi クライアント経由でアクセスできます。

Oracle Solaris の問題点

このセクションでは、Sun Blade X3-2B でサポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムに関する問題点について説明します:

- [47 ページの「Solaris パッチ一覧」](#)
- [48 ページの「Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の現時点での問題点」](#)

Solaris パッチ一覧

CR	サマリー	S10 パッチ	S11 SRU
6986256	Intel E5-2600 プロセッサ用 FMA	147706-02	SRU2
6893274	turnstile_block() でスレッド移行時に所有者なしの相互排他処理でパニック	147441-11	SRU1
7001739	AVX の問題		該当なし
7034757	E5-2600 の電源管理に関する問題		SRU4
7058497	E5-2600 PCIe ルートポートエラッタの修正	148172-01	該当なし
6956660	Intel E5-2600 プロセッサ用のパフォーマンスカウンタ	147156-01	該当なし
7103754	デッドライン TSC 割り込みストーム	該当なし	SRU2
7099332	igb ポートでのネットワークテストの失敗	145930-08	SRU4
7041871	CPU エラーに対して defect.sunos.eft.unexpectedtelemetry が生成される	148173-02	該当なし

CR	サマリー	S10 パッチ	S11 SRU
7093589	ARI が有効になっていると Erie EM の構成が失敗する	148603-01	SRU4
6938643	Erie EM ホットプラグ時にドライバを切り離すことができない	148099-01	該当なし
6843559	x64 ブレードプラットフォーム用の sxge ドライバ	12918641 (MOS)	該当なし

Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の現時点での問題点

このセクションの各トピックでは、Sun Blade X3-2B における Oracle Solaris 10 および Solaris 11 OS の問題点について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題点の一覧です。

問題点へのリンク	回避方法
25 ページの「Oracle ILOM 3.1 は、Oracle Solaris 10 8/11 および Solaris 11 11/11 オペレーティングシステムによって診断された障害をクリアできないことがある (7170842)」を参照。	あり
49 ページの「Oracle Solaris 10 8/11 OS 上で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない」	あり
49 ページの「Solaris 11 のリブート中に SXGE ドライバでシステムパニックが発生する (7121246、7162938)」	あり
50 ページの「Solaris 10 8/11 で電源ステータス違反が発生するように思われる (7162900)」	なし
50 ページの「S10 8/11 および S11 で、QDR IB-HCA PCI-E Gen2 Mellanox ConnectX-2 Base EM をホットプラグ装着するとエラーになることがある (7074000、7098279)」	あり
50 ページの「システムのブート中に警告が表示される (6913723)」	あり
51 ページの「Solaris 11 OS で電源を入れたまま Network Express Module を取り外すとエラーになる (7083321)」	あり

Oracle Solaris 10 8/11 OS 上で Oracle System Assistant の USB デバイスをマウントできない

次のエントリを参照してください: [34 ページの「一部のオペレーティングシステムで Oracle System Assistant USB デバイスをマウントできない」](#)

▼ Solaris 11 のリブート中に **SXGE** ドライバでシステムパニックが発生する (7121246、7162938)

Solaris 11 システムのリブート時に、sxge ドライバが原因でシステムパニックが発生します。

回避方法:

- 次のいずれかの回避方法を実行します:
 - リブートする前に **sxge** ドライバをアンロードします:
 - a. **sxge** インタフェースが構成されていないことを確認します。
sxge インタフェースが構成されている場合は、ipadm コマンドを使用します。
 - b. **sxge** ドライバをアンロードするには、次を行います:
`modunload -i module_id`
ここで、*module_id* はモジュール ID 番号で、modinfo から特定できます。
例:
モジュール ID を特定するには、次のコマンドを実行します:
`# modinfo | grep sxge`
このコマンドの出力例を次に示します:
`185 ffffffff7e49158 15398 144 1 sxge (SOL 10/40G Ethernet)`
上の例のモジュール ID は 185 のため、ドライバをアンロードするには次のコマンドを使用します:
`# modunload -i 185`
 - **shutdown** コマンドを発行してシングルユーザーモードに移行します:
`# shutdown -y`
システムがシングルユーザーモードに移行したら、システムにログインして、リブートします。

▼ **Solaris 10 8/11 で電源ステータス違反が発生するように思われる (7162900)**

サーバーが Solaris 10 8/11 OS をブートする前に Oracle ILOM 電力制限設定を有効にするとエラーになります。

回避方法:

- なし。
このリリースの Solaris OS はハードウェア的な制限には対応できません。

▼ **S10 8/11 および S11 で、QDR IB-HCA PCI-E Gen2 Mellanox ConnectX-2 Base EM をホットプラグ装着するとエラーになることがある (7074000、7098279)**

Solaris 10 8/11 OS および Solaris 11 OS で、QDR IB-HCA PCI-E Gen2 Mellanox ConnectX-2 Base EM をホットプラグ装着するとエラーになることがあります。

- EM をホットプラグ装着するには、次のコマンドを実行します:

```
# rem_drv iser  
  
# rem_drv rdsv3  
  
# reboot
```

▼ **システムのブート中に警告が表示される (6913723)**

Solaris 10 8/11 OS のシステムブート中に次のような警告がコンソールに表示されることがあります:

```
WARNING: pci_process_acpi_device: invalid _BBN 0xfc
```

- これらの警告は害がないため、無視してかまいません。

▼ Solaris 11 OS で電源を入れたまま Network Express Module を取り外すとエラーになる (7083321)

Solaris 11 OS で、電源を入れたまま NEM を取り外すとエラーになることがあります。Automatic NCP を使用して NWAM が有効になっている場合、ネットワークドライバが切り離されないため、電源を入れたまま NEM を取り外すとエラーになることがあります。NEM を電源を入れたまま取り外そうとすると、次のようなメッセージがログファイルに表示されます:

```
Aug 24 17:15:33 unknown genunix: [ID 730752 kern.warning] WARNING: (pcieb2):
failed to detach driver for the device (ixgbe0) in the Connection Slot1
```

```
Aug 24 17:15:33 unknown genunix: [ID 902422 kern.warning] WARNING: (pcieb2):
failed to unconfigure the device in the Connection Slot1
```

- 1 使用しているシステムで **Automatic NCP** プロファイルが有効になっていることを確認します:

```
# netadm list
```

一覧表が表示されます。表内の次のエントリは NCP が有効であることを示しています:

TYPE	PROFILE	STATE
ncp	Automatic	online

- 2 有効になっている場合、次のいずれかの手順を実行します:

- **NWAM** を無効にし、**NEM** をホットプラグ装着し、**NWAM** を有効にする

- a. 次のコマンドを入力します:

```
svcadm disable svc:/network/physical:default
```

注-上記のコマンドを発行すると、ネットワークがアクセス不能になります。ホストにアクセスするには、シリアルコンソール経由、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション経由、直接接続端末経由のいずれかの方法しかありません。

- b. 電源を入れたまま **NEM** を取り外します。
- c. シリアルコンソール、**Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーション、または直接接続端末から **NWAM** を有効にします

```
svcadm enable svc:/network/physical:default
```

- **NCP モードに切り替え、NIC を構成し、NEM をホットプラグ装着する**
 - a. **Automatic NCP** から **DefaultFixed NCP**、またはその他のユーザー定義の **NCP** に切り替えます。

注-上記のコマンドを発行すると、ネットワークがアクセス不能になります。ホストにアクセスするには、シリアルコンソール経由、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション経由、直接接続端末経由のいずれかの方法しかありません。

- b. シリアルコンソール経由、**Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーション経由、または直接接続端末経由で、**ipadm** コマンドを使用して、適切な **NIC** を構成します。
 - c. 電源を入れたまま **NEM** を取り外します。

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
ファームウェアとソフトウェアのアップデートについて説明します。	53 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアを入手するためのオプションについて学習します。	54 ページの「ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション」
入手可能なファームウェアとソフトウェアのパッケージを示します。	54 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストによって、ファームウェアとソフトウェアのパッケージを入手します。	56 ページの「ファームウェアとソフトウェアの入手」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	60 ページの「アップデートのインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。アップデートはソフトウェアリリースとして公開されます。ソフトウェアリリースは、サーバーで使用できるすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを含む、ダウンロード(パッチ)のセットです。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれている Read Me ドキュメントに、前回のソフトウェアリリースから変更された点と変更されていない点が説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースには、多くの場合はバグの修正が含まれていて、更新によってサーバーモジュールソフトウェアは、最新のシャーシファームウェアおよびその他のシャーシコンポーネントのファームウェアやソフトウェアとの互換性を確保できます。

ダウンロードパッケージ内の Read Me ファイルおよび『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) プロダクトノート』には、ダウンロードパッケージ内の更新済みのファイル、および現在のリリースで修正されているバグに関する情報が記載されています。さらに、プロダクトノートには、最新のシャシーのファームウェアでサポートされているサーバーモジュールソフトウェアのバージョンに関する情報も記載されています。

ファームウェアおよびソフトウェア入手のオプション

次のオプションのいずれかを使用して、サーバーの最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します:

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされる Oracle サーバー用の新しいオプションであり、サーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできるように支援します。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「[Oracle ILOM Web インタフェースからの Oracle System Assistant へのアクセス](#)」を参照してください。

- **My Oracle Support** – システムのすべてのファームウェアとソフトウェアは、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) から入手できます。

My Oracle Support で入手できるものの詳細は、[54 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法は、[56 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」](#)を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手できるダウンロード (パッチ) が含まれている DVD をリクエストできます。

詳細は、[58 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品種別はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは本当のソフトウェア製品のリリースではなく、サーバー用のアップデートのリリースです。これらのアップデートはソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数

のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

My Oracle Support には、次の表に示したとおりの、このサーバーファミリ向けのダウンロードタイプのセットが含まれます。これらは物理メディアのリクエスト (PMR) によってリクエストすることもできます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
X3-2B SWversion – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
X3-2B SWversion – OS Pack	OS パックは、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。各 OS パックには、該当のバージョンの OS 用のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージが含まれています。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SWversion – All packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックに SunVTS または Oracle System Assistant のイメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせをアップデートする必要があるとき。
X3-2B SWversion – Diagnostics	SunVTS 診断イメージ。	SunVTS 診断イメージが必要なとき。
X3-2B SWversion – Oracle System Assistant Updater	Oracle System Assistant アップデータおよび ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で復旧またはアップデートする必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、Read Me と、ファームウェアまたはソフトウェアのファイルを含むサブディレクトリのセットが含まれています。Read Me ファイルに

は、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントと、修正済みのバグの詳細が記載されています。これらのダウンロードのディレクトリ構造の詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

ファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする方法について説明します。

注 - Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用することもできます。詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』を参照してください。

アップデートされたファームウェアとソフトウェアには、ほかにも2つの入手方法があります。

- 56 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 57 ページの「物理メディアをリクエストする」

▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (拡張検索)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Blade X3-2B) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。

- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
入手可能なすべてのソフトウェアリリースを表示するには、フォルダを展開します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード (パッチ) のセットで構成されます。
入手可能なダウンロードの説明については、[54 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 パッチを選択するには、パッチ名の横にあるチェックボックスをクリックします (複数のパッチを選択できます)。
アクションパネルがポップアップ表示されます。このパネルには複数のアクションのオプションが表示されます。
- 9 アップデートをダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
自動的にダウンロードが開始されます。

物理メディアをリクエストする

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) によって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

次の表で、物理メディアのリクエストを行うための大まかなタスクについて説明し、詳細情報のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストを行うために必要な情報を収集します。	57 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインで、または Oracle サポートに電話することで、物理メディアをリクエストします。	58 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 59 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します:

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必要なパッチを把握します。最新のソフトウェアリリースと、リクエストするダウンロードパッケージ(パッチ)の名前がわかっていると、より簡単にリクエストを行うことができます。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 56 ページの「[My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあとに、ダウンロード手順を続けない場合は、「パッチ検索結果」ページから移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 54 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」にある情報を使って、目的のパッケージを判断してから、最新のソフトウェアリリース用のこれらのパッケージをリクエストしてください。
- 送付先情報を用意します。リクエストのためには、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所を提供する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、57 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載されている情報を収集します。

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスして、サインインします。
- 2 ページの右上隅にある「問合せ先」リンクをクリックします。
- 3 「リクエストの説明」セクションで、次を入力します:
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンリストから、次を選択します:
物理メディアのリクエスト(レガシー Oracle 製品、Primavera、BEA、Sun 製品)
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次を入力します:
Sun Blade Sun Blade X3-2B の最新ソフトウェアリリースの PMR
- 4 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します:

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか?	はい
どの製品ラインに関係するメディアのリクエストですか?	Sun 製品

質問	回答
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい
パッチを CD や DVD でリクエストする場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	該当するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力します。
リクエストする製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Blade X3-2B バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号。
リクエストするメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
この送付に言語は必要ですか？	いいえ

- 5 送付先の担当者、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および送付先住所の情報を入力します。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「関連ファイル」の下に **Knowledge Article 1361144.1** と入力します
- 8 「送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[57 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」](#)に記載されている情報を収集します。

- 1 **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある適切な番号を使用して、**Oracle** サポートに電話します:
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Blade X3-2B** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。
 - **My Oracle Support** から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。

- ソフトウェアリリース情報にアクセスできない場合は、**Sun Blade X3-2B** の最新のソフトウェアリリースをリクエストしてください。

アップデートのインストール

以降のトピックでは、ファームウェアとソフトウェアのアップデートのインストールに関する情報を提供します:

- [60 ページの「ファームウェアをインストールする」](#)
- [61 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアをインストールする

更新されたファームウェアは、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center が 1 つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシ上にファームウェアをインストールできます。

詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant では、Oracle の最新のファームウェアをダウンロードしてインストールできます。

詳細は、『[Sun Blade X3-2B \(旧 Sun Blade X6270 M3\) 管理ガイド](#)』の「サーバー構成のための [Oracle System Assistant の使用](#)」を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内のファームウェアを更新できます。

詳細については、次にアクセスしてください: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースおよび Oracle ILOM CLI を使用して更新できる唯一のファームウェアです。

詳細については、次にアクセスしてください: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>。

ハードウェアドライバと **OS** ツールのインストール

更新されたハードウェアドライバとオペレーティングシステム (OS) 関連のツール (Oracle Hardware Management Pack など) は、次のいずれかを使用してインストールできます:

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – 詳細については、次にアクセスしてください:

<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html>

- **Oracle System Assistant** – 詳細は、『Sun Blade X3-2B (旧 Sun Blade X6270 M3) 管理ガイド』の「Oracle System Assistant によるサーバーの設定」を参照してください。
- JumpStart、Kickstart、またはサードパーティー製ツールなどのその他の配備メカニズム。

詳細は、使用している OS のドキュメントを参照してください。

